

令和7年度（2025） 前期始業式 校長あいさつ

みなさん、あらためておはようございます。学校長の梅田です。

本日は私からみなさんにお話をする最初の日となるわけですが、最初にみなさんに伝えたいことは何か、いろいろ考えました。考えた末に、これからの学校生活、ひいては人生を送るに際しての心構えのような話をしようと思います。といっても堅苦しい話をしようというわけではありません。気楽に聞いて下さい。

まず、みなさんはこの多摩高校に入学して、早くも1年、2年が過ぎたわけですが、この間、何かを継続することの難しさや大変さを痛感したことと思います。学習でも部活動でも、前向きな気持ちを持ち続けることのなんと難しいことか。これは今後の人生においても、大きな課題となることかもしれません。

モチベーションということばがよく使われます。「モチベーションを上げる」とか「保つ」とか、巷にはこうしたハウツー本も多数存在します。モチベーションとは動機づけや意欲、やる気といった意味を持ちますが、ここで気をつけるべきことは、モチベーションとは、上げたり保ったりしなければいけないものだということです。言い換えると、モチベーションは下がるリスクを常にはらんでいる。なにかのプロジェクトがあって、それに向かって努力している時はモチベーションが一時的に高まり、そのプロジェクトが終わってしまったら一気に下がっていく。これでは意欲、やる気を継続できず、人生に生きがいややりがいを感じられなくなってしまうかもしれません。もし、そうした周囲の状況に左右されず、意欲ややる気を維持することができれば、一番理想的な状態といえるでしょう。

そこで、みなさんにはぜひ、コミットメントという概念を身につけて欲しいと思います。コミットメントとは、「委託、誓約、約束」など様々な意味を持つことばですが、「責任を持って約束する」という意味合いが強く、そこには「確かな使命感」というものが存在します。自分の存在意義といってもいいかもしれません。もし生きていくうえで、一時的な感情の高ぶりであるモチベーションではなく、使命感をともなうこうしたコミットメントが備わっていれば、人生に生きがいややりがいを感じるができるでしょう。

一つ例をお話します。1959年、中部地方を中心にある大災害が起きました。伊勢湾台風です。死者、行方不明者合わせて約5,000人の方々が被害にあいました。この頃の天気予報は今のよう気象衛星などがなかったため、地上に気象レーダーを設置して観測していましたが、この伊勢湾台風を機に、遠くにある台風観測のため、障害物など周囲に遮るものがない、なるべく高い場所で観測する必要が生じました。そこで当時の気象庁は富士山の山頂に気象レーダーを建設するという壮大な計画を立てたのです。しかし富士山頂での建設は当然困難を極め、作業員は次から次へと倒れます。給料に見合わない大変な仕事だとして、下山しようとする者が後を絶ちませんでした。その時、現場監督だった方が、作業員一人ひとりに「この仕事は多くの人たちを救う歴史に残る仕事なんだ。一生に一度でいいから、子孫に自慢できるような仕事を一緒にやり遂げようではないか」と訴えたのです。すると、この一言で富士山頂での建設という途方もない仕事使命感を伴って等身大の仕事として実感できるようになったのです。出世や金銭の話ではなく、まさにコミットメントが引き出された瞬間でした。

みなさんには人生に生きがいややりがいを持つために、こうしたコミットメントをぜひ身につけてもらいたい。それが具体的にどのようなものであるかは一人ひとり違うでしょう。しかし共通しているのは、人間の生きがいややりがいは、人から感謝されることにあるということです。これをヒントに、これからの残りの高校生活やその先の人生を幸せに過ごして欲しいと思います。

多摩高生のよさは勉強も行事も部活動も全力投球でぶつかること。しかし人間、いつでも全力投球では疲れてしまうこともあります。何かで悩んだ時は、決して一人では悩まないこと。これは約束してください。信頼できる人に相談してください。

それでは、これから学校生活の様々な場面で活躍するみなさんの姿を心から楽しみにしています。一緒に頑張っていきましょう。